

「いじり」についてしっかり考えてみよう

1 「いじり」「いじる」という言葉

「いじり」「いじる」という言葉は、お笑いの中で人をからかうということとして使われるようになりました。お笑いの中では、笑いをとる手法としてある程度認められてきました。

- ・ 他人をからかったり
 - ・ 自分自身のことを 顔や体型などの外見や勉強ができないことや、失敗したことをおもしろおかしく言って、笑いをとる
- そういうことが笑いをとるためには、仕方ないとされてきました



2 「いじりなら許されるという勘違い

こうしたことが背景にあり、学校でなされる「からかい」を「いじり」と呼ぶ風潮がでてきました。「からかい」であれば許されないことが「いじり」であれば笑いをとる手法として許されるということになってきました。いじりによって、笑いが生まれ、お互いの心の距離が近くなると考えている人もいます。

3 「いじられる」ことが苦痛なのに苦痛だと言えない

「いじり」が「からかい」と同様である以上、「いじり」を受けている人が苦痛を覚えることは多くあります。しかし、「笑いでその場の雰囲気になごむ」とか、「いじられキャラをやめてしまうと友人が離れていく」というような、もっともらしい理由から、苦痛を感じていても、それを苦痛だといえなくなってしまうことが多いのです。苦痛を受けているのに苦痛だと訴えにくいので、「いじり」はいじめより恐ろしいものと言えるかもしれません。

4 相手を傷つけずに、よりよい友だち関係を作っていくために大切なこと

その場のノリや笑いでつながることは、とても簡単なコミュニケーションの一つですが、相手との距離を近づける親しい関係になるのに、その笑いだけでなれるかということ、実は難しいものです。やはり「人と人が向き合う」ことや「相手との会話を積み重ねる」時間が大事ではないでしょうか。また、言葉がどれだけの力をもっているかということ、きちんと把握する必要がある、やはり言葉を出す前に「これは、大丈夫なのか？」というように、1回立ち止まってみることが大事なのかもしれません。



北辰タイムや『学び合い』で人と関わることの大切さを学んでいるみなさんだからこそ、相手との心の距離を近づける正しい方法を身につけてほしいです。